

# アドベンチャーガイドズ アマダブラム(6,856m)峰公募登山隊 2018 募集要項



**お問合せ** (株)アドベンチャーガイドズ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-5-4山和ビル3階

Tel: 03-5215-2155 Fax: 03-3288-3211

# 2018年 アマ・ダブラム公募登山隊

この登山隊は「アマ・ダブラム峰(6,856m)」登頂を  
目的とした公募形式の登山隊です。

## 「アマダブラム 6,856m」

ネパール・クーンブ地方、エベレスト街道の中心地ナムチェバザールのほど近くに位置する秀峰アマダブラム。「母の首飾り」の意味を持つその名の通り美しく、そして特徴的な山容のため、エベレスト街道の山々の中でも特に印象深い山です。

またナムチェバザール近くにあるため、ベースキャンプまでのアプローチが比較的容易ながら、岩壁登攀、氷壁登攀が含まれる本格的な山岳登攀が楽しめるということで、公募登山隊として、6000m峰ながら、8000m峰に負けない人気がある山です。



## 「公募登山隊」

標高6,500m以上の高所では、酸素が薄く、気温も-20℃以下になることもある過酷な自然環境が待ち受けます。体力・技術・豊富な経験等を持ち合わせた、登山のエキスパートのみに許される領域です。しかしながら「高所経験の豊富な山岳ガイドのサポート」、「積極的なネパール人高所ガイドの雇用」等により、一般の登山者にも登頂が可能なタクティクスを作ることが出来ます。この隊は、参加者自身の技量だけでは登頂が難しい

一般の登山愛好家を中心に、山岳ガイドが登頂のために必要な技術、経験の足りない部分をサポートしながら登頂を目指す公募登山隊です。

## 「日本人が企画・運営する公募登山隊のメリット」

現在、世界各国でアマ・ダブラムの公募登山隊が募集されています。これは国際隊で参加者の中心は欧米諸国の登山者になります。近年、日本人にもこの欧米の公募登山隊に参加する方を見受けられます。しかし、言葉や文化の違い、そして体格差による基礎体力の違いなどから、うまくこれらの登山隊に馴染まず良い結果が得られない方もいるようです。

アドベンチャーガイズの公募登山隊は日本人による日本人のために企画・運営される公募登山隊で、食事、ペース配分等、日本人参加者に合わせるのは無論のこと、登山成功の大きなポイントであるストレス解消や登山意欲の維持がうまくできるように日本語できめ細かくサポートします。

隊員も自分の要望を細かいニュアンスまで伝えることができるので、ストレスがたまりずらい快適な環境での登山活動になります。

## 「公募登山隊参加費用」

カトマンズ発着 10/15(月)～11/8(木) 25日間 ¥1,700,000.

### 「公募登山隊参加費用に含まれるもの」

登山申請料＋入山手続費用、現地ホテル宿泊費用、現地キャンプ費用(食事も含む)、  
現地での荷物運搬費用(トラック、ヤク、ポーター)、現地移動費用、日本人リーダー同行費用、  
ネパール人ガイド同行費用、登攀用具等共同装備費用

\* 同行スタッフ 公募登山隊参加者が6名の場合

日本人山岳ガイドx1名 ネパール人ガイドx4名 ネパール人コックx1名 キッチンスタッフx1名

### 「参加費用に含まれないもの」(主なものを例示します)

登山後の現地ガイドへのチップ、個人的に利用した衛星電話等通信費、自由行動中の費用、  
現地事情でルートを変更した場合の費用、天候等で予定通り行動出来なかった場合に新たに発生する  
ホテル・航空券の費用、規定以上の個人装備運搬費用、その他個人的諸経費

### 公募登山隊に参加するためのツアー

10/14(日)～11/10(土) 28日間 旅行費用 ¥155,000.

旅行企画・実施 株式会社アドベンチャーガイズ 観光長官登録旅行業1713号

最少催行人員:4名 利用予定ホテル:カトマンズ＝ガンジョン、チベット

利用予定航空会社:マレーシア、キャセイ、タイ、シンガポール、エミレーツ、カタール、エティハド航空

### 「旅行費用に含まれるもの」

東京～カトマンズ間往復航空券(帰国便変更可能航空券)、カトマンズのホテル宿泊費用  
(日程表に明記されたもの)、カトマンズ空港～ホテル間の移動費用、

\* 別途お渡しする、旅行条件書、旅行約款を必ずご確認ください。

**「公募登山隊＋ツアー合計参加費用 ¥1,855,000.」**

### 「アマダブラム公募登山隊諸注意」

\* 出発の1ヶ月前を目処に事前技術講習会を開催します。実際にアマダブラムで使用する、空中懸垂下降等の技術を講習いたします。講習費用が別途必要になります。

(基本的には東京近郊のクライミングジムで実施します。1日で¥15,000.)

\* この公募隊は、出発の2ヶ月前で募集を締切ります。締切以降の取消はいかなる理由でも所定の取消料が必要になります。ご自身の登山技術にご不安な点がある方は、締切日以前に講習会やプライベートガイドプランに参加して頂き、技術レベルをチェックして下さい。事前にチェックをされずにお申込頂き1ヶ月前の事前技術講習会で登山レベルに問題があると判断された場合、参加をお取消し頂くか、現地のベースキャンプでお待ち頂く場合がございます。この場合のお取消には規定の取消料が必要になります。また、ベースキャンプで待たれる場合でも参加費用の返金はございません。予めご了承下さい。

## 注意事項(お申込み前に必ずお読み下さい)

### 1. 参加の技術、体力レベル

参加に際しての標準的な技術、体力レベルの目安は下記ようになります。

- \* ダブルアックスで氷壁登攀の経験がある。
- \* ロープを使った岩稜登攀の経験がある。
- \* 雪上を含む基本的なテント生活経験がある。
- \* 国内で1日標高差1000m以上を登り降りができる
- \* 3泊4日以上長期山行の経験がある。
- \* 基礎的な高所順応の知識があり、6000m以上の高所経験がある。

### 2. 登山隊長・登山ガイドに関して

日本から同行する日本人リーダーが登山隊長として、この公募登山隊を運営・管理します。また隊長は高所登山経験が豊富な者を選任します。ネパールでは日本やヨーロッパ諸国のように国際的な技術水準をもつ山岳ガイドが手配出来ません。このため、日本から同行する山岳ガイドが中心となりネパール人ガイドをサポートスタッフとして一緒に登山隊を運営します。また、ネパール人スタッフは原則的に日本語は話せませんので英語での会話となりますが、登山中の重要な事項は日本人ガイドが通訳致しますので言葉の不安はほとんどございません。

### 3. 高所への対応

登山中全ての隊員に必ず高度の影響が出てきます。この登山隊は全ての隊員の登頂が安全に成功するよう下記のように万全の体制で高所へ対応を行ないます。

- \* 高度順応の為に最適と思われる日程を組みます。
- \* 携帯用加圧バック等の高所登山用の装備を用意して登山に望みます。
- \* 日本人山岳ガイドが効率良く高度順応出来るよう健康管理も含め的確にアドバイスします。

### 4. 登山中の判断に関して

ルート決定、日程調整、パーティー編成、登山中止等登山中の判断は隊長および日本人山岳ガイドが参加者の安全を第一に考え行ないます。この決定には必ず従って頂きますので、予めご了承下さい。

### 5. 登山中止に関して

隊長および日本人山岳ガイドは参加者の安全を第一に考え登山活動を行います。天候、ルートの状況、参加者の体調によってはやむを得ず登山活動の全部、または一部を中止する場合があります。予めご了承下さい。また、これらの決定は隊長および日本人山岳ガイドが行い、いかなる事由があろうと必ず従って頂きます。また登山が中止された場合いかなる事由であれ参加費用の変更、返金はありません。予めご了承下さい。以下に登山を中止する場合の対応を例示します。

- \* 悪天候で登山を中止した場合。  
可能な限り予備日の範囲内で登山活動を継続しますが、やむをえない場合は、全部または一部を中止する場合があります。
- \* ルートの状況により登山を中止した場合。  
天候、天災、政治的事由等で出発前に登山が困難と判断された場合は可能な限り登山ルートの変更または他の山の登山に振替えます。
- \* 交通機関、宿泊施設、装備運搬に支障がでた場合  
登山予備日を使用して可能な限りアタック態勢を整えるよう努めますが、不可能な場合は登山ルートの変更または他山の登山に変更する場合があります。
- \* 登山技術が未熟で登山活動の継続が出来ないと判断

された場合、安全に登山を継続する事ができないと判断された時点で下山を開始します。

その場合、全体のパーティー構成が変更される場合があります。

- \* 登高ペースが遅い場合、余裕をもって安全地帯まで下山するにはペースが遅いと判断された段階で下山を開始します。その場合、全体のパーティー構成が変更される場合があります。
- \* 登山装備に支障があった場合。  
装備に支障があった場合、その参加者の登山を中止します。装備表を良くご覧になり準備して下さい。(新しいアイゼン等は事前に実際に装着して装着可能か確認して下さい。)

装備について不明な点がありましたらお問い合わせ下さい。また、現地では個人装備の貸与は一切致しませんので、予めご了承ください。

### 6. キャンプに関して

上部キャンプへの個人装備の荷上げは原則的に隊員自身が行います。また上部キャンプの設営は原則的にネパール人ガイドが行います。

### 7. 緊急時の対策

この登山隊で訪れる地域は、一般的には秘境、辺境と呼ばれる地域です。可能な限り山岳ガイドや現地スタッフは無線機等での連絡方法を確保し、緊急時に備えますが、日本やヨーロッパ諸国等に比べて、必ずしも十分な救助体制が確立されていません。

参加者はその点を十分に理解した上、無理のない行動安全な登山を心がけて下さい。また、隊員は弊社が指定する内容の山岳保険に加入することが参加条件となりますので、予めご了承下さい。

### 8. 公募隊の記録

公募隊で記録された写真、ビデオ、隊員の様子等、行動レポート等は主催者の判断でテレビ、ビデオ、雑誌ホームページ等で公開することに同意頂きます。

また、参加者が独自に公開する場合は主催者の許可が必要であることに同意頂きます。

### 9. 申込み

出発の2ヶ月前までに申込書と申込金を添えて申込下さい。 申込金： ¥300,000.

### 10. 提出書類

下記の書類を出発2ヶ月前までにご提出下さい

1. 山岳保険申込書(同等の保険に加入済みの場合はその証券等のコピー)
2. 山歴書
3. 参加に際する約定書
4. 健康診断書
5. その他、渡航手続きの書類

### 11. 参加取消

下記の参加取消料をお支払い頂く事によって公募隊の参加を取り消すことが出来ます。

#### 公募登山隊

出発日の60日～31日前	参加費用の75%
出発日の30日～当日	参加費用の95%
無連絡不参加、出発後	参加費用の100%

#### 公募登山隊に参加するためのツアー

出発日の30日～3日前	参加費用の20%
出発日の前々日～当日	参加費用の50%
無連絡不参加、出発後	参加費用の100%

## 《アマダブラム峰公募登山隊 日程表》

	月 日	日 程
<b>【10月14日(日) 東京 → カトマンズ】</b>		
1	15日(月)	カトマンズ (1,350m)
2	16日(火)	カトマンズ → ルクラ(2,820m) → パクディン (2,620m)
3	17日(水)	パクディン → ナムチェバザール (3,440m)
4	18日(木)	ナムチェバザール → クンデピーク → キャンジュマ (3,550m)
5	19日(金)	キャンジュマ → パンボチェ (3,930m)
6	20日(土)	パンボチェ → デインボチェ (4,410m)
7	21日(日)	デインボチェ滞在 (4,410m)
8	22日(月)	デインボチェ → パンボチェ (3,930m)
9	23日(火)	パンボチェ → アマダブラムBC (4,600m)
10	24日(水)	BC → C1(5,800m) → BC (4,600m)
11	25日(木)	BC → C1(5,800m) → C2(6,100m) → BC (4,600m)
12	26日(金)	BC滞在 (4,600m)
13	27日(土)	BC滞在 (4,600m)
14	28日(日)	BC → C1 (5,200m)
15	29日(月)	C1 → C2 (6,100m)
16	30日(火)	C2 → C3 (6,400m)
17	31日(水)	C3 → アマダブラム山頂(6,856m) → C3 (6,400m)
18	11月01日(木)	C3 → BC (4,600m)
19	02日(金)	登山調整日 (4,600m)
20	03日(土)	登山調整日 (4,600m)
21	04日(日)	登山調整日 (4,600m)
22	05日(月)	BC → パンボチェ (3,980m)
23	06日(火)	パンボチェ → ナムチェバザール (3,440m)
24	07日(水)	ナムチェバザール → ルクラ (2,820m)
25	08日(木)	ルクラ → カトマンズ
<b>【11月09日(金) カトマンズ → (機中泊)】</b>		
<b>【11月10日(土) 東京 】</b>		

\*公募登山隊に参加するための最低期間のスケジュールを明記しております・ご参考ください。

《アマダプラム登頂参考装備表》

NO	品名	数量	チェック	備考
1	登山靴	1足	○	オーバーブーツ体型などの高所用登山靴が望ましい。
2	軽登山靴	1足	○	履きなれたもの。ベースキャンプまでのアプローチに使用。
3	運動靴または普段履き	1足	○	都市滞在中、車での移動などに使用。
4	サンダル	1足	○	1足あるとリラックスできます。
5	アイゼン	1個	○	12本爪以上のフルアイゼン。取り付け方が簡単なもの。
6	ピッケル	1個	○	軽量で長すぎないもの。
7	エイト環	1個	○	懸垂下降用。
8	ハーネス	1個	○	シットハーネスタイプで装着の簡単なもの。
9	安全環付きカラビナ	2個	○	ハーネス装着用に必要。スリングも1本あると便利。
10	アッセンダー	2個	○	通称ユマール。ダブルで使う場面もあります。
11	アブミ	2個	○	テープスリングでも代用できますが、テープアブミがよい。
12	ストック	1組	○	三段の伸縮するものが便利。
13	大型バック等100ℓ位	1個	○	飛行機に預けるバック。鍵が掛かるもの。BCへの荷物の運搬にも使用。汚れても平気なもの。スーツケース不可。
14	中型バック等60ℓ位	1個	△	BCまでの荷物の運搬に使用。汚れても平気なもの。中型リュックサックと兼用も可。
15	中型リュックサック 50ℓ位	1個	○	寝袋、マットなどの個人装備が入るもの。上部キャンプへの移動時に自分で背負うリュックサック。
16	アタック用ザック 40ℓ位	1個	△	頂上アタック時に使用します。水筒などが入るもの。中型リュックサックと兼用も可。
17	羽毛服	1着	○	頂上アタック時に使用。BCでの保温用などにも使用。
18	アウターシェル	1組	○	オーバージャケット、オーバースーツ。防水性が良く、ムレないもの。急な降雨には雨具として、高所では防寒着、または防風着として使用出来るものが便利。
19	ミッドレイヤー	1組	○	行動用の薄手のフリースやシャツ等から、防寒用の厚手のフリースや薄手の羽毛下着等の組み合わせ。ウール・化学繊維系のズボンやタイツ等の組み合わせ。軽く、暖かく、温度調整のしやすいもの。綿製品は不可。
20	ファーストレイヤー（下着）	1組	○	ウール、ポリエステル系素材によるロングスリーブ、ロングタイツが望ましい。汗などの水分の速乾性と動きやすさの両立したもの。綿製品は不可。ショーツ等もこれに準ずる。
21	オーバーシューズ （一体型の場合は不要）	1組	△	シンサレート等の中綿の入ったものはとても暖かい。オーダーメイドのものがベスト。

NO	品名	数量	チェック	備考
22	手袋	2双	○	厚手の未脱脂のウール製品等、登攀用製品。他に薄手のアンダーグローブもあると便利。
23	オーバーミトン	1組	○	十分な大きさと厚手の手袋の上から着用できるもの。3本指、5本指など。羽毛入りミトンが望ましい。
24	靴	3足	○	メリノウールと化学繊維のミックスが、保温性、速乾性、クッション性が優れている。
25	目出帽	1個	○	薄手のもの。BUFF（バフ）等と高所帽との兼用も可。
26	帽子	適量	○	日よけ用。キャップなど。高所帽兼用も可。
27	ヘルメット	1個	○	登山用の軽量のもの。
28	寝袋（シュラフ）	1個	△	羽毛量800g程度の冬山用が安心。ベースキャンプ用のものは、当社で用意しております。
29	シュラフカバー	1枚	○	軽量で防水性が高いもの。
30	個人用マット	1枚	○	寝心地はエアーマット。保温性と軽さはロールマット。
31	折りたたみ傘	1個	△	降雨・降雪に備え。日傘にも応用可。街中でも使えます。
32	サングラス	1個	○	顔の大きさにあったもの。安価なものは不安。
33	ゴーグル	1個	○	顔の大きさにあったもの。Wレンズのもの。
34	ヘッドランプ	1個	○	予備電池も必要。LEDのものが効率が良い
35	水筒	1個	○	1ℓ以上のもの。ハイドレーションも便利。
36	ピーボトル	1個	○	高所で使用する尿瓶。ナロゲンボトル等口径の広いもの。
37	サーモス（テルモス）	1個	○	移動中や夜間に温かい飲物が飲めるよう。1ℓ程度のもの。
38	日焼け止めクリーム	適量	○	日焼け防止や唇荒れ防止に
39	マスク	適数	○	防塵用と睡眠時に喉の乾燥を防ぐ為。使い捨てのものが便利
40	洗面用具	適量	○	普段使い慣れたもの。
41	医薬品	適量	○	持病薬の他、鎮痛剤、外傷薬、感冒薬、整腸薬、胃腸薬等、常備薬は漢方系の物が体の負担が少なく安心です。
42	嗜好品	適量	○	体調が悪く食欲の無い時に簡単に食べられるものなど。
43	嗜好品	適量	○	体調が悪く食欲の無い時に簡単に食べられるものなど。
44	磁石・高度計・温度計	適量	△	持っているとう便利。
45	筆記用具	適量	○	ボールペン、メモ帳など。

○：必需品 △：なくても困りませんがあった方が便利 ×：不要

\*上記装備表は絶対的なものではありません。上記を参考に各自装備リストをお作り下さい。



